

シカゴ先物+610で57,213円ギャップアップも寄付が天井。08:50のGDP速報下振れ（年率+0.2%）+円高152円台で買い続かず。前場じり安→11:15に56,748安値。後場13時に57,053まで回復も15時台に再び売られ56,806着地。N225 -0.24% / TOPIX -0.82%。Growth +2.47%と中小型は逆行高。

事実parquet / web検索で確認済み

推論筆者の解釈・因果推定

未検証ソースはあるが数値精度が未確認

本日のマーケットサマリー

事実

日経平均

56,806

-135.56 (-0.24%) 3日続落

TOPIX

3,787.38

-31.47 (-0.82%) 続落

USD/JPY

153.37円

前日152.82 → +0.55 円安方向

日経VI

31.03

-3.18 (-9.3%) 30超16日目

日経225 高値

57,219

09:00 寄付直後（=天井）

日経225 安値

56,748

11:15 前場引け前

高値→終値

-413

57,219 → 56,806（上ヒゲ陰線）

売買代金（プライム）

7兆2,376億

前日10.76兆から大幅減

事実

騰落銘柄数（プライム）

805 : 742

上昇50% / 下落46%

事実

JPXプライム150

1,572.69

-8.87 (-0.56%)

事実

TOPIX サブ指数

事実

指数	終値	前日比	変化率
TOPIX	3,787.38	-31.47	-0.82%

指数	終値	前日比	変化率
TOPIX-Prime	1,951.62	-16.21	-0.82%
TOPIX-Standard	1,704.86	+17.61	+1.04%
TOPIX-Growth	970.42	+23.42	+2.47%

注目 **事実** : 大型株（Prime -0.82%）は売られたが、中小型株（Standard +1.04%、Growth +2.47%）は逆行高。騰落805:742で銘柄数では値上がり優勢。日経平均の下落は値嵩株の影響が大きく、市場全体としては方向感混在。

日中タイムライン

5分足parquetデータ

解説部分は推論

- 08:50 GDP速報発表
2025年10-12月期GDP速報: 実質前期比+0.1%、年率+0.2%（事実）。市場予想を下回る（事実）。寄前発表のためギャップアップ幅を縮小させた可能性（推論）。
- 09:00 寄付（=日中高値）
57,213（前日比+271 / +0.48%）でギャップアップ。シカゴ先物57,600（+610）を大幅に下回る寄付（事実）。寄付直後に57,219をつけた後は下落一方（事実）。寄付が天井。
- 09:00-09:30 前場急落
57,213 → 56,933 (-280 / 30分間)。09:30の5分足で56,930まで下落（事実）。GDP下振れ + 円高152円台で買い手不在、戻り待ち売りが先行（推論）。
- 09:30-11:15 じり安継続
56,933 → 56,748（日中安値）。11:15に安値到達（事実）。自動車（トヨタ等）・銀行の売りが重しに。輸送用機器-2.03%、銀行-3.44%（推論：円高+GDP下振れの直撃セクター）。
- 11:30 前場引け
56,791で前場終了。寄付から-422の大幅安（事実）。
- 12:30-13:00 後場回復

56,854 → **57,053 (+305回復)**。13:00に後場高値（事実）。SBG反発（前日急落の自律反発）、リクルート・ニトリ買いが指数を押し上げ（推論）。

● 13:00-14:30 後場もみ合い
57,000前後で膠着（事実）。**2/18特別国会を控えた様子見**（推論）。

● 14:30-15:25 大引けにかけて再下落
56,977 → 56,806 (-171)。15:20に56,846まで下押し後、56,806で着地（事実）。**明日の特別国会前のポジション調整**（推論）。

136円安の要因分析 推論

以下の要因分析は複数のニュースソースの解釈を統合した推論です。値動き自体は事実ですが因果関係は証明されていません。

要因1 GDP速報の下振れ 事実

08:50発表の2025年10-12月期GDP速報: 実質前期比+0.1%、年率+0.2%。2四半期ぶりのプラスだが市場予想を下回った（事実）。輸出-0.3%、インバウンド消費-0.6%と外需が弱い（事実）。**寄前の買い意欲を削いだ**（推論）。

要因2 円高進行 152円台 事実

USD/JPY 寄前に152.52円まで円高進行（事実）。2/13の米CPI +0.2%（予想下回り）→ 利下げ期待回復 → ドル売り円買い（事実）。**輸出関連（自動車-2.03%）の売り材料に**（推論）。

要因3 値嵩株の売り 事実

ファーストリテイリング、東京エレクトロン、オリンパス、テルモが売られた（事実）。日経平均は値嵩株のウエイトが高いため、TOPIX(-0.82%)よりN225(-0.24%)の方が浅い場合でも、値嵩株が指数を押し下げ。**2/9-12の急騰で値嵩株の利確が出やすい**（推論）。

要因4 特別国会前の様子見 推論

2/18に特別国会で首相指名、2/20に施政方針演説を控える（事実）。高市新内閣の政策期待はあるが、具体策が出るまでは積極的に買えない（推論）。売買代金7.24兆円は前日10.76兆から大幅減で薄商い（事実）。

注目ニュース 事実

1 米CPI結果 (2/13発表)

1月CPI: 前月比+0.2%、前年比+2.4%（予想+2.5%を下回る）。コア前年比+2.5%。昨年5月以来の2%台前半（事実）。NYダウ+49（+0.10%）と小動き。NASDAQ-50（-0.22%）。利下げ期待回復でドル安・円高が進行した（事実）。

2 日本GDP速報 (2/16 08:50)

2025年10-12月期: 実質前期比+0.1%、年率+0.2%。2四半期ぶりプラスだが力強さに欠ける（事実）。名目GDP 662兆円で5年連続増加（事実）。トランプ関税の影響で輸出が振るわず（事実）。

推論

シカゴ先物+610の好地合いが、*GDP*下振れ+円高の二重パンチで消化された。ただし騰落805:742と銘柄数では値上がり優勢で、「大型売り・中小型買い」の二極化相場。*Gemini 3*ショック（2/13）の余波は限定的で、市場のテーマは政治イベント（2/18-20）に移行中。

— 筆者の解釈（複数ニュースソースから合成）

セクター動向

事実

上昇上位5業種

業種	変化率
鉄鋼	+2.15%
情報・通信業	+2.02%
鉱業	+1.65%
ガラス・土石製品	+0.93%
その他製品	+0.56%

下落上位5業種

業種	変化率
ゴム製品	-4.36%
銀行業	-3.44%
精密機器	-3.12%
卸売業	-2.08%
輸送用機器	-2.03%

大型 vs 中小型

区分	変化率
TOPIX-Prime（大型）	-0.82%
TOPIX-Standard（中型）	+1.04%
TOPIX-Growth（小型）	+2.47%

推論 円高が輸出大型株（自動車・精密）を直撃する一方、内需・グロース銘柄に資金が回った。銀行は金利低下観測で売り。

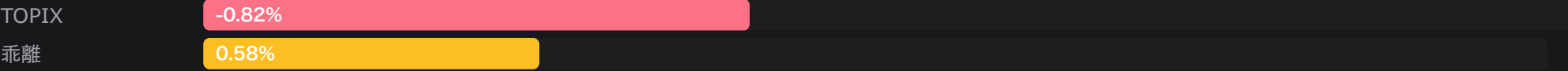
日経平均 vs TOPIX 乖離

N225浅い・TOPIX深い・中小型逆行

数値はparquet

日経225

-0.24%



5日間のN225 vs TOPIX推移

日付	日経225	TOPIX	乖離	方向
2/9 (月)	+3.89%	+2.29%	1.60%	N225優位
2/10 (火)	+2.28%	+1.90%	0.38%	N225優位（縮小）
2/12 (木)	-0.02%	+0.70%	0.72%	TOPIX優位（逆転）
2/13 (金)	-1.21%	-1.63%	0.42%	N225優位（再逆転）
2/16 (月)	-0.24%	-0.82%	0.58%	N225優位（乖離拡大）

事実

2日連続でTOPIXの方が深い。N225 -0.24% vs TOPIX -0.82%、乖離0.58%。しかし騰落805:742は値上がり優勢。

推論

大型のウエイトが高いTOPIXが値嵩株・銀行・自動車の売りで下落。一方で中小型（Growth +2.47%）は堅調で、「資金シフト」が発生。選挙ラリーで大型に偏った資金が中小型に分散し始めた可能性。

米株・海外要因 (2/13-14 NY市場)

事実

米国市場 2/14終値

指数	終値	前日比
NYダウ	49,501	+49 (+0.10%)
NASDAQ	22,547	-50 (-0.22%)
SOX指数	8,138	+53 (+0.66%)
シカゴ日経先物	57,600	+610

米CPI (2/13発表)

事実

項目	結果	予想
CPI 前月比	+0.2%	+0.3%
CPI 前年比	+2.4%	+2.5%
コアCPI 前月比	+0.3%	+0.3%
コアCPI 前年比	+2.5%	+2.5%

推論

CPI下振れで利下げ期待回復 → ドル安円高（152円台）。米株は小動きだが、東京は円高が重しに。

為替: CPI後の円高が重荷

数値はparquet

タイミング	USD/JPY	備考
2/12 引け	153.27	3営業日続落（円高方向）
2/13 引け	152.82	米CPI下振れでドル売り進行
2/16 安値	152.52	寄前に1月以来の円高水準
2/16 高値	153.40	午後にかけてドル買い戻し
2/16 引け	153.37	前日比+0.55（円安方向に戻る）

1 CPI後のドル安が東京を直撃 推論

2/13 NY時間に米CPI下振れ → USD/JPY 153.27→152.82。週明け東京寄前にさらに152.52まで進行（事実）。自動車・精密の下落に直結（推論）。

2 午後は153円台回復 事実

東京午後に153.37まで戻した（事実）。朝方の円高ピークアウトにより、後場の株価回復（13:00の57,053）と連動（推論）。ただし2/10の156円台からは依然として大幅な円高水準。

Extreme Market パターン Day5 = -0.24%（通常モード復帰）

ルール: 先物 >+3% の翌日からDay2とカウント。Day2-3はショート回避、Day4から再開検討。Day5以降は通常モード。

Day	1月パターン				2月パターン			
	日付	N225	ショートP&L	勝率	日付	N225	ショートP&L	勝率
Extreme	1/13	+4.04%	-160,950	3/21	2/9	+4.20%	-4,900円	1/2
Day2	1/14	+1.17%	-37,000	8/19	2/10	+2.28%	-32,600円	3/7
Day3	1/15	-0.35%	-201,300	7/20	2/12	-0.02%	+1,400円	4/8
Day4	1/16	+0.70%	+296,200	17/21	2/13	-1.21%	+26,200円	7/8
Day5	1/19	+0.49%	-74,300	12/20	2/16	-0.24%	-28,300円	0/5

事実 Day4（2/13）はN225 -1.21%でショートP&L +26,200円・勝率7/8。指数下落環境で個別ショートが機能した。

事実 Day5（2/16）はN225 -0.24%だがショートP&L -28,300円・勝率0/5。全銘柄Q5（prob_up 0.59-0.84）のためショートが全敗。指数下落でもQ5銘柄は上昇した。

推論 Day4はQ1含む8銘柄で+26,200円と好成績だったが、Day5はQ5のみ5銘柄で全敗。銘柄のquintile分布がP&Lを支配しており、Extreme Marketパターンよりも銘柄選定品質の影響が大きい。

2/17(火)以降の判断材料

全体が推論

このセクションは全体が筆者の推論です。未来の値動きは予測不可能です。

今週の経済指標・政治イベント

事実

日付	時間	イベント	重要度
2/17 (火)	22:30	米・小売売上高（1月）	中
2/18 (水)	日中	特別国会・首相指名選挙	高
2/18 (水)	28:00	FOMC会議声明	高
2/19 (木)	08:50	鉱工業生産（12月）	中
2/20 (金)	08:30	日本CPI（1月）	高
2/20 (金)	日中	施政方針演説	高
2/20 (金)	22:30	米PCEデフレーター（1月）	高

今週は政策イベント集中週

事実

- ・ 水曜: 特別国会（首相指名）+ FOMC → 日米の政策方向が同日に判明
 - ・ 金曜: 日本CPI + 施政方針演説 + 米PCE → 金融政策と財政政策の両面で材料
- 機関投資家がポジションを動かしやすいタイミング。特に金曜は週末前+重要指標3つで薄商い or 急変動の両方の可能性。

ブル要因（ショートに対して逆風）

- 高市新内閣の政策期待

2/18首相指名 → 2/20施政方針演説。防衛費増額、経済政策への期待。「高市トレード」（円安・株高）が再燃する可能性（推論）。

- 米CPI下振れ → 利下げ期待

1月CPI +2.4%で昨年5月以来の低水準（事実）。FOMCで利下げ示唆があればリスクオン。ただしコアCPIは+2.5%で横ばい（事実）。

ヘア要因（ショートに追い風）

+ GDP下振れ → 景気減速懸念

年率+0.2%は力なく、輸出・インバウンドが弱い（事実）。「高市トレード」の前提となる景気回復シナリオが揺らぐリスク（推論）。

+ 短期過熱のスピード調整

2/9起点+4,375円の急騰からまだ-1,209円の調整（事実）。半値押し55,827円までは下値余地。VI 31.03は高止まりで不安心理残存（推論）。

+ 円高継続リスク

USD/JPY 152-153円台。FOMCでハト派ならさらにドル安進行 → 輸出株・銀行に逆風。日本CPIが強ければ日銀利上げ観測で円高加速（推論）。

? 金曜リスク: 重要指標3連発

2/20は日本CPI + 施政方針演説 + 米PCEの三重イベント。週末リスク回避のポジション調整 + イベント結果次第で急変動（推論）。

アクションプラン

推論

- ・ **Extreme Marketルール終了**。通常のgrok選定ルールで運用
- ・ **2/18 (水) FOMC + 首相指名**: 日米政策の方向が判明。結果を確認後にポジション判断
- ・ **2/20 (金)**: 日本CPI + 施政方針演説 + 米PCEの三重イベント。金曜はボラ拡大を想定
- ・ **grok選定**: Q1銘柄優先。今回の5銘柄は全てQ5（prob_up 0.59-0.84）でショート不向き
- ・ **中小型の動き**: Growth +2.47%。大型→中小型への資金シフトが継続するか要注目

参照ソース

マーケットデータ

- ・ 日経: 東証大引け 日経平均は3日続落、スピード調整 **事実**
- ・ 株探: 強弱材料 2/16 **事実**
- ・ 株探: 16日の株式相場見通し＝戻り局面 **事実**

経済指標

- ・ 日経: 25年10～12月実質GDP、年率0.2%増 **事実**
- ・ 米CPI 1月 +2.4% 詳細分析 **事実**

市場分析

- ・ 外為どっとコム: 日経平均見通し 高市トレード再燃か

推論

内部データ

- ・ index_prices_max_1d.parquet — N225日足 (Open/High/Low/Close)
- ・ topix_prices_max_1d.parquet — TOPIX / Prime / Standard / Growth 日足
- ・ currency_prices_max_1d.parquet — USD/JPY日足
- ・ futures_prices_max_1d.parquet — NKD先物日足
- ・ index_prices_60d_5m.parquet — N225 5分足 (タイムライン構築)
- ・ nikkei_vi_max_1d.parquet — 日経VI
- ・ market_analysis_20260213.html — 前回レポートとの連続性

結論

今日の要約:

事実

日経平均 -136円 (-0.24%) で3日続落。シカゴ先物+610のギャップアップも寄付57,219が天井。GDP下振れ+円高で前場じり安、11:15に56,748安値。後場13時に57,053まで回復も大引けにかけて再下落、56,806着地。TOPIX -0.82%で日経より深い。一方Growth +2.47%、Standard +1.04%と中小型は逆行高。騰落805:742で銘柄数は値上がり優勢。売買代金7.24兆円。日経VI 31.03 (-3.18)。

推論

大型売り・中小型買いの二極化。選挙ラリーの大型株利確が一巡し、資金が中小型に回り始めた可能性。市場のテーマは今週の政策イベント (FOMC / 首相指名 / 施政方針演説 / 日本CPI / 米PCE) に移行。

grok選定の課題

事実

今回の5銘柄は全てQ5 (prob_up 0.59~0.84)。MLモデルが「上がる」と予測する銘柄のみで構成されており、ショート戦略には不向き。hold_stocks.csvの一日信用3銘柄 (6613, 247A, 9564) はいずれも含み損。Q1銘柄が選定されない限り、エントリーの見送りも選択肢。

今週のキーポイント

推論

- ・ 2/18 (水): FOMC + 首相指名。日米政策の方向が同日に判明するビッグデー

- ・ 2/20 (金): 日本CPI + 施政方針演説 + 米PCEの三重イベント。金曜なのでポジション調整も重なりボラ拡大
- VI 31.03 → 30割れが近い。30を割れば不安心理後退でリスクオン方向
- ・ **判断基準:** FOMC結果 + 円の方向 + grok選定銘柄のquintile分布

generated at 2026-02-16 by Claude Code / 数値データはparquet (2026-02-16収録分)、定性データはweb検索

P&L符号はショート基準 (ショートP&L = -ロングP&L) | 本レポートは投資助言ではありません

新フォーマット試運転版: セクター動向(NEW) / TOPIX サブ指数(統合) / 経済指標カレンダー(統合) / 注目ニュース(統合)